

第23回平荘小学校狂言発表会《NO.4》
狂言を通じて伝えたいこと

平荘小学校は、今年度で狂言発表会が23回目となります。それぞれの方からお言葉をいただきました。



今年度で、平荘小学校は131年になります。その中の23年間、狂言の学習ができたことをうれしく思います。

毎年毎年、その年々の6年生の特徴があります。クラスの色、個性・・・と、違ってきます。同じ演目の『附子』や『柿山伏』を繰り返し繰り返し上演してきましたが、その年、その年の特徴がありました。

狂言を大勢の人たちの前で演じ、笑っていただくことが、一番うれしいです。狂言はコメディです。

みなさん、おもしろかったですか。今日は、ありがとうございます。ありがとうございます。

狂言は、伝統芸能の代表です。その狂言を平荘小学校で23年間、演じてきました。毎年毎年演じてきました。

伝統は守るものではない。その年々に、息を吹き込むものです。その年々に演じる人たちが今をプラスして息を吹き込むことで、守っているのだと思います。

狂言が生まれて700年近いですが、未来永劫守るだけではダメです。

今生きている私たちが、新しい息吹を吹き込むことで、伝統は続いていくのだと考えています。



平之荘神社の皆様、平荘狂言教室の皆様、いつも支えてくださり、どうもありがとうございます。



山口先生、いつも『小舞』を披露していただき、ありがとうございます。

山口先生の『小舞』



校長の話より

皆様、狂言発表会にお越しいただき、誠にありがとうございました。

6年生は、2学期に入り、発表会に向けて稽古を積んできました。

6年生は、山口先生から『自分の発した言葉の反応を感じてほしい』『前の人演技をしっかり見て、つなぐように』とご指導いただきました。

平成28年度からは、平荘狂言教室後援会が発足し、平荘狂言を支えてくださいました。ありがとうございました。

山口先生、23年間、本当にお世話になりました。



みなさん、今日は楽しかったですか。

振り返りますと、平荘狂言の始まりは、2001年度でした。それから今日までの23年間、時にはコロナ禍の中、活動が思うようにできなかったこともありましたが、子どもたちは『つなぐ』をテーマに、伝統を途切らせることなく現在まで受け継いできました。

平荘狂言が成立したきっかけは、①平之荘神社の能舞台に鏡の松が描かれていたこと②6年生の国語の教材に『附子』があったこと③当時の宮司さんと校長先生が意気投合したこと④山口先生との出会いがあったこと⑤当時の6年生が、狂言に興味をもったことです。これらの中の一つでも欠けていたら、平荘狂言はなかったと思います。

今年度をもって、平荘小学校は閉校となります。今まで平荘狂言を愛し支えてくださった全ての方々に、感謝申し上げます。



山口先生に、感謝状と記念品を贈呈しました。

記念品の一つには、『23年間の歩み』と題したアルバムを贈呈しました。

山口先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。